

## 第 5 回 内視鏡脊髄神経外科研究会

### PELD Interlaminar 法による合併症例の検討

#### Analysis of operative video for PELD complications

古閑 比佐志、稲波 弘彦

コガヒサシ 付み ヒロコ

岩井整形外科内科病院

Iwai Orthopaedic Medical Hospital

稲波脊椎関節病院

Inanami Spine and Joint Hospital

PELD 法には interlaminar approach と transforaminal approach があるが、L5/S1 の腰椎椎間板ヘルニアに対しては、interlaminar approach を第一選択としている。また椎弓間隙の広い症例では L4/5 でも interlaminar approach を行っている。今回術後に一過性の膀胱直腸障害が生じた例を経験したので、その原因を検討した。

症例は 59 歳女性、3 ヶ月前からの左下肢後面痛が悪化し来院した。内服や硬膜外ブロックなどで痛みが軽快せず、軽度に筋力低下も認めたことから (Gas 5/4, FHL 5/4, SLR 70/50+)、2015 年 6 月 27 日 PELD を実施した。手術時間は 44m、髄核摘出量は 2.5g で骨棘も切除した。術中 MEP の改善も認めたが、手術直後より肛門括約筋収縮低下と左 S 領域の paresthesia を生じた。MRI で除圧は十分に行われていることを確認したが、術中操作による可能性が否定できないため、ステロイド投与を開始した。点滴から内服に切り替えて、ほぼ 1 ヶ月で排便は正常化、知覚異常は残っているが、テニスなども再開できるようになった。

本口演では術中ビデオを供覧し、可能性の高い手術操作に関して言及するとともに、その後、我々が合併症回避のために注意している点などに関して解説する。